

令和 8 年度 まちづくり移動町長室開催結果概要

茶屋地区

日 時：令和 8 年 8 月 23 日(日)10：00～11:30

場 所：山西防災コミュニティーセンター

参加者：10 名

地域コミュニティについて

参加者	地域コミュニティは、個人情報保護なども関係して、広げていくのが難しい。行事もなくなりつながりが薄くなってきている。総合計画に基づく地域コミュニティの活性化に向けた町の取り組みとその考え方を教えて欲しい。
町長	地域の役員などのなり手が出てこないというのが課題で、自治会への加入も減ってきている。1 軒 1 軒お願いしても難しい状況というのはどの地区も同じだと思う。地域コミュニティで、イベントやつながりは高齢化の中で必要だが、防災の観点が一番心配に思っている。地域コミュニティが成立して、住んでいる方を把握することは重要であり、その部分と自治会加入については、町も課題として受けとめている。 去年一昨年と上町、中町というのは残したまま、できるところは一緒にできないかと行政から働きかけ、地区長を順番にすることなどを町も入り話し合った。それぞれのやり方があり、平行線ではあるものの当事者だけでは進まない部分もあるので、職員が出向きながらやっていこうと思っている。 百合が丘は地域集会施設を耐震化したが、今度はうまく使われていないなどの課題も見えてきており、地区と話をしている。 様々な課題があるので個別に向かい合っているのが現状である。
参加者	総合計画の分野別方針の位置づけで地域イベント、福祉、防犯防災、環境など町民の暮らしをみんなで支える生活が期待される。また、高齢化の進行や世帯の小規模化により関わり方も変化し、多くの組織で役員などの担い手不足が懸念され、自治会などの組織を支援するとともに、情報共有、連携強化を進めるとしている。自治会などの組織だけでなく、様々な分野で担う地域活動団体の組織、強化をするとともに、多様なコミュニティのうち、地域への参画促進や、情報共有支援体制の充実を含めて記載されている。具体的に何を、どのような指示をしているのか。
副町長	総合計画は具体的にこの内容が言葉通りにおちるものではなく、これまでも定常的な組織運営として対応はしているが、変えるべきことが大きくなっている。人口においても、人が増えている、人口構造が変わっているというところだけを見ても、対応ができない部分があるので、総合計画を来年から見直すにあたり、改めてだす人口ビジョンの時には地区ごとの情報を調べ、特徴を把握するようなデータを収集できればと思っている。 自治会として、新しい人と個人情報の問題などでつながるのが難しいが、つながることは重要であり、地区の話ではあるが考えていかなければならないと思う。 情報共有・連携に関しては、自治会ごとに課題があるので、課題を共有することを去年から始めている。共通の課題や取り組みを吸い上げて町全体で共有し働きかけ、スタートにつなげていく。
参加者	防災に関して、地域に入っていないから、隣で倒れていても助けることはできないとはできないが、言葉を変えて自治会加入を進めるのもいいのではと思う。 女性防災隊で AED の使い方を伝えに行っているが、地区に行くと、もっとたくさんの人のところでやって欲しいとの要望があるが、地区と地区との歩み寄りが無い。

	茶屋地区もそうだが、人が少なくなってもう少し地域に浸透させることは何か本当に考えていかなきゃいけないと思う。
--	--

参加者	総合計画の中で、地域活動に参加している人の割合を令和４年度の３２％から５年後に３４．５％にする目標を設定している。自治会に加入をするために町としての積極的な施策や考えがあれば。 転入者の孤立という話があったが、そういった方ともつながりをもちたいが、なかなかつながりを持ってない。例えば東大果樹園跡地で様々なことやっているが、そういったイベントとつながりを持たしてもらうなど何かできればまた変わってくると思う。
町長	地域活動に参加している割合は下がってきているのが実情だと思う。町としては、転入手続きの際に地区ごとのチラシを渡し、自治会への加入を促しているが、その後、自治会までいっているかの後追いはできていない。チラシも各地区で工夫しているところだが、加入率を高めるのは難しいところ。 つながりということでは、中里地区では盆踊りを防災コミセンでやっているが、参加者が少なくなっていることから、東大果樹園跡地で活動する団体が盆踊りもやっていたため、そこに入れてもらうかを考えていた。今年は時間がないためできなかったが、そういうやり方や新しい工夫を地区ごとにしている。 越地地区は地引きをやっており、そのときだけ参加する方もいるが、そこから盆踊りへの参加につなげたりしている。 地区の状況によって、町としても把握している団体とつなげていきたいと思っている。

参加者	命に関わる防災、旗振りなどの子どもの命に関わる安全・安心、地域行事などの地域の活性化の３つについては、個人情報の名簿を共有できるよう教育委員会や学校、全町内会に働きかけてほしい。 地域の活性化のために子どもや学生、大学と連携して、若者が入って人を呼べるし新しい発想の取り組みが必要ではないか。 子供たちの見守り、安全・安心のために、旗振り当番を積極的に推進してやってほしい。子ども宿泊体験は子どもにとっても親にとっても素晴らしい企画だったので何らかの形で復活させほしい。 プロジェクトチームを立ち上げ、町主催で子ども神輿大会やソーラン踊り大会、親子運動会など、地域を巻き込んでやってほしい。また、お祭りと盆踊りを町が率先してやれば地域の盆踊りももっと活性化すると思う。 地区住民全体が参加する防災訓練の実施、町の支援で子ども食堂の開設、地域の文化や特色を共に学ぶ活動や教育の推進は、地域でも具体的に考えなければいけない。防災訓練をやるにあたって、地域の人を強制的に組織にいった新しい組織づくり等をやらないと災害で集まってもほとんど救助ができないという状況なので緊急の課題だと思う。 神輿やお囃子や太鼓があるので、そういうものをもっと活性化する手だてを考えることは地区の問題だが、町と協力し合っていきたい。
町長	高齢者の個別避難計画を作る際にも職員と民生委員で個別に承諾を取って個人情報を使用している。学校からの個人情報を使うにしても、手順を踏まないと厳しい状況だと思うが、諦めるのではなくどうするのかという次のステップに移っていく必要があると思う。 旗振り当番は様々な事件もあり、地域と協力して続けていくことが大事だと思う。 宿泊体験は、青少年指導員などがやっていたがなり手が難しいこと、PTA 役員もなかなか一緒にいけないことなどもありやめた経緯がある。２泊３日でというのは無理かもしれないが、東大果樹園跡地という日帰りのキャンプファイヤーや炊飯体験などができる場所もあり、今年から自然塾という団体のの方に青少年指導員に入ってもらい、炊飯体験などをやれたらという話し合いが始まっている。

	また、青少年がこないことも課題だが、小さい子は来ており、その子たちもいずれは青少年になるので、小さい子のキャンプ体験等から始めていくということも考えている。 各種イベントは町主催では厳しい状況であるが、共催やバックアップしていきながらというところ。新しい団体の動きもあるので連携しながらできればと思う。商工会青年部も何年かに1回花火大会をやっているので、町もバックアップしながらできると思う。 盆踊りは学校の校庭などで合同盆踊り大会がいいのではとも言われており、地区がいくつか集まり話が始まってからと思うが、町が呼びかけるのは難しい。 防災訓練は今後も各地区の防災訓練に職員が出向いていきたいと思う。個別の車中避難や自宅避難を進めているが、車中避難や自宅避難は避難者の把握が難しいという課題も感じている。今後訓練の中で具体的にどう把握していくのかをシミュレーションして繰り返していくしかないと思う。 自治会に入っていないなくても黄色いタオルは自宅で用意してもらい、地区はそれで安否確認をしていることを何らかの形で伝えていく。 子ども食堂は、山西だと教会で月1回やっている。百合が丘は有志の方と自治会が一緒になって毎月バザーや食堂をやっている。また駅前のとまり木という事務所でフードバンクもやっている。町民活動補助金を立ち上げのときに使ったところもあるが、町が支度金を出しているのではなく、やっていただいているところ。 お神輿、お囃子については、4月、5月ぐらいに各地区は第何曜日にどこで練習しているといった具体的な内容を載せたチラシを配っており、当分続けていこうと思っている。
--	---

参加者	盆踊りは商工会と観光協会という町のトップの団体が会議を開き、商工会青年部がやってくれればと思う。 今年、梅沢は8年ぶりに盆踊りを立ち上げた。上町、下町、中町も3団体合同でやれば盛り上がるのではないかな。最終的に小学校区でやってもいいと思う。
町長	団体に働きかけるのと、また地区ごとでいいというところもあるかもしれないので調整が必要となると思う。

参加者	元町北は黄色いタオルがマグネット式のため風で飛んでしまうので、タオルにして欲しいという声がある
町長	確認する。

参加者	茶屋では夏祭りに参加する子どもが減っている。各学年の生徒がどこに住んでいるかわからないので、学校に相談に行ったが、個人情報のため共有できないためチラシを学校で配ってくれたが、返事のない子供の家に訪問ができない。個人情報の問題もわかるが自分たちで配って訪ねるようにしたい。
町長	チラシを配って当日来てくれるかどうかを待つしかない状況だと思う。 防災に関しては自治会に入っていざというときに備えましょうというメッセージを広報紙等を通じて発信していくのも重要だと思う。

参加者	町がコミュニティの崩壊という危機にぶつかっていて、庁舎やラディアンをやっている場合じゃない。第一の重要課題がこれだという位置付けのもと、新たにプロジェクトチームを立ち上げて、第1課題を明確にして動き始めないと変わらない。
-----	---

参加者	地区によっては地区長が毎年交代しており、1年という期間で、覚えないうちに代わってしまう。地域で直してもらわないという話をしているが、地区によって温度差もあり、改善に時間がかかると思う。
-----	---

	安否確認の書式を役員で集約していることで、高齢者のひとり暮らしの方で反応がなく確認に行ったときでも、連絡先がわかり、家族に状況を伝えられるので非常にいいと思う。
--	--

小児病院跡地について

参加者	小児病院跡地は売却などの話が出ているが、あそこはいろんな規制があると思うが、仮設住宅や仮設トイレなどをつくれるのか。
町長	今の計画だと、災害時の避難場所、仮設住宅、災害ごみの置き場などにはなっていない。

参加者	小児病院跡地は危ないというが同じ高さで町立体育館は避難場所になっているのでは。
町長	昔の法律と変わっているので今建物を建てるとなると急斜面で使える面積も下がる。そういう意味でも、まず、不動産鑑定をやっていく。

参加者	今売却しても購入価格の 1/2 以下になると思う。ゆめクラブのボランティアを活用して、更地のままで一時的な避難場所として残したらと思う。
町長	不動産鑑定をしたうえで結論を出していく。

広報紙について

参加者	広報 2 月号に掲載されていた表彰で、詳しい表彰の内容に関してはホームページをご覧くださいとなっていた。何の表彰かは広報を見てわかるようにした方がいいのではないかと。1 年前くらいには町長からの一言などがあつたがもう全くやられてない。重要な部分の町長や副町長のコメントを入れた方がいい。
町長	広報の改善については確かめる。

にのみや学園について

参加者	にのみや学園がよくわからないので、にのみや学園とは・メリットはなにかなど周知はしているのか。していないなら簡単にまとめて戸別配布した方がいい。
町長	にのみや学園は学校が 5 つに分かれたまま将来の小中一貫を目指すとしているのでわかりにくいと思うが、小学校 6 年と中学校 3 年の 9 年間をつないだカリキュラムの編成などをやっていてその効果は出ているので、周知方法も含めて考えていきたいと思う。

その他

参加者	11 月に職員の横領事件があつたが、再発防止策はどういうことをしたのか。新聞情報だと町長は 30%3 ヶ月間、副町長は 20%3 ヶ月で、課長が 10%1 ヶ月の減給とあつた。500 万というお金を昨日今日入った職員に任せて、課長が 10%1 ヶ月の減給だと他の課長から見ても気の毒ぐらいで終わってしまうので、他の課長も危機感を持てるようにしたほうがよい。再発防止策で FX っていう例を出していたと思うが、他の職員がやってないのか調査みたいのをされたのか。準公金の調査はしたのか。
町長	再発防止策は作り、部課長だけでなく全体で共有しながら再発の防止に取り組んでいる。減給の割合は、特別職は決まっていないが職員は決まっている。準公金については全部把握しており、団体で全部やってもらいなるべくなくしているがいくつかはまだ残っている部分があるため、そのシステムを全部見直した。統一のルールを作って、監査を内部的に改めて確認をする時も、責任者である課長や部長など、このレベルでしっかり確認をし、そういったことがなくなるようにした。